

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会  
令和6年度 全国教職員研修会

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会  
東北ブロック会  
実行委員長 須賀 一好

開催要項<第2報>

介護福祉士養成施設の未来像  
～介護福祉士の人間力の涵養と養成教育の価値～

開催趣旨

介護を取り巻く環境はここ数年で大きく変化しています。

エッセンシャルワーカーとしての存在価値が認知されつつある一方で、少子高齢化による慢性的な人材不足から脱却できないばかりか、社会的評価は依然として高まらない現状が続いています。介護人材不足に対する打開策として、介護ロボットやICT機器の導入、外国人介護福祉職の活用などがクローズアップされています。介護サービスの提供者は、単なる「お世話」に終始してはならない。そのために介護福祉士養成施設では「支援」に対して多角的なカリキュラムをもとに教育活動を展開しておりますが、介護を取り巻く環境は目の前の利用者を支援していくための量的な支援に偏重していると言わざるを得ません。教育者として、実践者として、いかに利用者に対して適切な介護を提供していくか、その介護はどのようなものであるか、その意義や意味を再確認する必要があるのではないかと考えております。

今回のテーマとして「介護福祉士養成施設の未来像～介護福祉士の人間力の涵養と養成教育の価値～」を掲げました。これは、時代のニーズに即してあり方が問われる介護福祉士にとって、その普遍的な存在意義を検討するにあたり、現在地はどのようなものなのか、養成教育において介護福祉士のコア（核）はどのようなもので、どういった教育が必要なのかについて教育現場あるいは実践現場からの問題提起や取り組みを通して協議して頂きたいと考えております。養成教育を経た介護福祉士は、介護の中心的存在であり、決して失うことのできない人材であるためにどのようにするか、皆さんと検討できる機会だと捉えております。

日時 令和6年10月24日（木）12:30～18:00（受付11:30～）  
10月25日（金）9:30～11:45（受付9:00～）

会場 山形テルサ  
〒990-0828 山形市双葉町1丁目2番3号  
TEL 023-646-6677

開催方法 ハイフレックス方式（対面＋オンライン）

参加費	会 員（事前申し込み）	参加型	8,000 円	オンライン型	5,000 円
	（当日申し込み）	参加型	10,000 円		
	非会員	参加型	11,000 円	オンライン型	7,000 円

**主 催** 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

**主 管** 日本介護福祉士養成施設協会 東北ブロック会

**後 援** 厚生労働省（予定）  
 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会（予定）  
 公益社団法人 全国老人保健施設協会（予定）  
 公益社団法人 日本介護福祉士会（予定）  
 山形県（予定） 山形市（予定）

**研修内容**

参加される皆様と介護福祉士養成の現状と課題を共有し、課題解決に向けて継続して取り組むことのできる内容とすべく、準備を進めております。

皆様のご意見を頂戴できるだけでなく、教員間の親睦やネットワーク構築の一助となる貴重な機会ですので、可能な限り対面参加をご検討ください。

<研修 | 日目>

研修プログラム	
時 間	内 容
11:30~12:30	受付
12:30~12:50	開会式 主催者挨拶【オンライン】 日本介護福祉士養成施設協会会長 会長 澤田 豊 教育力向上委員会委員長挨拶 群馬医療福祉大学短期大学部 理事長 鈴木 利定 実行委員長挨拶 東北文教大学短期大学部 学長 須賀 一好
12:50~13:20	行政説明【オンライン】 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 室長 吉田 昌司 氏
13:20~14:20	基調講演 「学生の多様化における学校（教員）の向き合い方」（仮） 東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 竹之内 章代 先生

15:00~16:30

教育力向上委員会主催 研修プログラム

A.領域「人間と社会」の講義の進め方

社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会が発表した報告書の「介護人材に求められる機能の明確化キャリアパスの実現に向けて」の中で、新たに「求められる介護福祉士像」が示された。カリキュラムの全体像としては「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」から成り立っている。また、IT化、デジタル社会化、外国人介護福祉士の増加など日本の介護福祉士を取りまく社会環境は大きく変化している。「人間と社会」の領域のなかで、「人間の尊厳と自立」と「人間関係とコミュニケーション」が介護福祉士の養成では根幹をなす部分といえる。今回はこれらを踏まえて論議を深めたい。

コーディネーター：白井幸久（群馬医療福祉大学短期大学部）

- (1) オリエンテーション
- (2) ミニ講義1「人間の尊厳と自立」
- (3) ミニ講義2「人間関係とコミュニケーション」
- (4) 意見交換会、まとめ

B.領域「介護」に関する教育方法の提案

(1) ICT 介護関連資格の紹介

領域「介護」において、ICTに関する知識・技術の重要性が増す中、キャリア形成の視点を教育に活かすため、スマート介護士、IT介護士、介護ロボットマスター等のICT介護関連資格設立の背景とプログラムを紹介する。

- ・司会：津田理恵子（神戸女子大学）
- ・登壇者：小林宏気（東京未来大学福祉保育専門学校、東京都立産業技術高等専門学校）
- ・ゲスト：九藤博弥（インフィック株式会社）

(2) 科目間連携が可能な動画教材の作成

複数科目で利活用できる動画教材の提案。「令和4年度調査研究」をベースに共同研究で、継続的に行っている動画教材についての報告を行う。

- ・登壇者：野田由佳里（聖隷クリストファー大学）
- 松田愛美（神奈川県立保健福祉大学）
- 高橋由紀（北海道医療大学）
- 松山美紀（国際医療福祉大学）
- 齊藤美由紀（日本福祉教育専門学校）

16:40~17:25	「介護福祉士養成のあり方検討委員会」報告 委員長 小笠原靖治（福岡介護福祉専門学校学校長）
17:25~17:45	諸連絡 等

<研修2日目>

時間	内容
9:00~9:20	受付
9:30~11:20	分科会 <u>第1分科会 災害介護教育</u> <u>第2分科会 ICT・介護ロボット教育</u> <u>第3分科会 介護福祉士養成学校存続に向けて</u>
11:30~11:45	閉会式 閉会挨拶 次期開催ブロック 挨拶 近畿ブロック会

現在、開催期間中に介護ロボットの展示等を検討、調整しております。

**分科会内容****【第1分科会】**

<b>分科会テーマ</b>	災害介護教育 ～災害時・緊急時における多職種連携について～
<b>分科会趣旨</b>	<p>介護福祉の基礎教育において、他職種との連携の重要性は多くの科目において教授されているところである。災害時や緊急時においては、利用者の命と安全を守り、日常を取り戻すまでのプロセスにおいて、介護福祉職は、救急救命士、医師、看護師、保健師、介護支援専門員、行政等、多職種と連携することが重要である。</p> <p>この分科会では、災害や緊急時に関する介護福祉教育の実践例や災害救援活動の実際について話題提供をしていただき、多職種との連携を中心としたディスカッションを通して、今後の介護福祉教育に生かすことをねらいとして実施する。</p>
<b>分科会目的</b>	災害時・緊急時の多職種連携に関する教育の実践例や、災害支援活動における多職種連携の実際から、介護福祉士養成における災害時・救急時の多職種連携教育の意義と授業展開について考える。
<b>分科会方式</b>	パネルディスカッション
<b>座長</b>	高橋 美岐子(秋田県 日本赤十字秋田短期大学)
<b>進行</b>	千葉 智子(福島県 国際医療看護福祉大学校)
<b>話題提供者</b>	<p>① 日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 講師 佐藤 沙織 氏 【テーマ】介護福祉士養成における災害時の多職種連携 【概要】15年前より展開してきた災害介護に関する教育内容と、能登地震における支援を通して得た多職種連携の意義等について紹介いただく。</p> <p>② 社会福祉法人 旭川やすらぎ会 魁聖園 居宅介護支援事業所 田口 由貴子 氏(介護福祉士・ケアマネジャー) 【テーマ】能登地震における DWAT の活動と多職種連携の実際 【概要】能登地震において、DWAT の一員として災害支援活動にあたった経験から、支援活動と多職種連携の実際を紹介していただく。</p> <p>③ 国際医療看護福祉大学校 救急救命士科 学科長 高橋 利行(たかはし としゆき) 氏 【テーマ】緊急時における救急隊との連携の必要性について～介護総合マネジメント学科・救急救命士科のシミュレーション授業を通して～(仮) 【概要】介護総合マネジメント学科と救急救命士科の合同授業をはじめて 10年になる。施設等による救急要請が増加の一途を辿る現在、互いの職業理解や多職種連携によって得られる教育効果について紹介する。</p>

タイムスケジュール	9:30～9:40 挨拶・説明(分科会の趣旨、各パネリストの紹介、進め方等)
	9:40～10:40 話題提供
	① 9:40～10:00 日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科 講師 佐藤 沙織 氏
	② 10:00～10:20 社会福祉法人 旭川やすらぎ会 魁聖園 居宅介護支援事業所 田口 由貴子 氏(介護福祉士・ケアマネジャー)
	③ 10:20～10:40 国際医療看護福祉大学校 救急救命士科 学科長 高橋 利行 氏
10:45～11:25 ディスカッション・まとめ	

## 【第2分科会】

分科会テーマ	ICT・介護ロボット教育 ～ICT/介護ロボットを介護教育の中に組み入れるためには？～
分科会趣旨	介護人材不足に対する施策として「生産性向上」があり、ICT 化・介護ロボットは介護施設では積極的に導入されている。その一方で、介護福祉教育では生活支援技術の中にある「福祉機器の使用」に関する項目で触れられているのみである。介護実習で介護ロボットに触れる機会があるとは考えられるが、施設によって導入状況等にも差異は生じる可能性もあるため、実践現場と介護教育との間に乖離が生じている現状もあり、決して看過できるものではない。今後の介護福祉士養成において ICT・介護ロボットの学習について議論を深める必要がある。
分科会目的	多くの ICT/介護ロボットが開発・導入されているなかで、介護福祉士を養成する学校として、何を大切に教育していくのか、議論が十分ではないと考える。単なる「使い方」ではない、養成校で展開する「ICT/介護ロボット」教育のあり方を検討したい。
分科会方式	ハイフレックス開催（対面+ Zoom ミーティング）によるシンポジウム
座長	堀江 竜弥（宮城県 仙台大学）
進行	三國 美香（青森県 青森明の星短期大学）
コメンテーター	池森 康裕 氏（北海道医療大学 看護福祉学部 福祉マネジメント学科）

シンポジスト	<p>① 仙台大学 体育学部 健康福祉学科 准教授 堀江 竜弥 氏</p> <p>【概要】ICT/介護ロボットに関する話題提供をするにあたり、介護福祉教育における ICT/介護ロボットの位置づけ、ICT/介護ロボットを取り巻く状況、活用可能性として関係機関との連携について紹介する。</p> <p>① 厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 介護福祉専門官 鈴木 真智子 氏</p> <p>【概要】介護を取り巻く現状や介護福祉士養成における ICT/介護ロボットを活用する方向性、これまで厚生労働省で実施した介護ロボットの調査結果の報告等も含めて行政の立場から紹介いただく。</p> <p>② 東日本国際大学 健康福祉学部 教授 金成 明美 氏</p> <p>【概要】介護ロボットを介護福祉教育に活用している取り組みについて、その実際を紹介頂くとともに、介護福祉士養成における ICT/介護ロボット教育の在り方について問題提起していただく。</p>
タイムスケジュール	<p>9:30～9:40 開会宣言、趣旨説明、分科会開催における諸注意、 登壇者およびコメンテーター紹介</p> <p>9:40～9:55 話題提供 仙台大学 体育学部 健康福祉学科 准教授 堀江 竜弥 氏</p> <p>9:55～10:15 発表①【オンライン】 厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 介護福祉専門官 鈴木 真智子 氏</p> <p>10:15～10:35 発表② 東日本国際大学 健康福祉学部 教授 金成 明美 氏</p> <p>10:35～10:45 小休憩・会場設営</p> <p>10:45～11:15 ディスカッション 会場およびオンライン参加者からの質疑応答、等</p> <p>11:15～11:25 まとめ 北海道医療大学 看護福祉学部 福祉マネジメント学科 講師 池森 康裕 氏</p>

【第3分科会】

分科会テーマ	介護福祉士養成学校存続に向けて ～養成校継続活動の展開～
分科会趣旨	時代のニーズに即してあり方が問われる介護福祉士にとって、それを担う養成校の現在地はどのようなものなのか、養成教育において介護福祉士のコア(核)はどのようなもので、どういった視点で継続活動が必要なのか。「広報」「人材確保」「実践、戦略(技術)」に着目して今後の方向性の確認、対策や活動実践内容等を共有していく。
分科会目的	参加した方が「自分たちに活かせる」内容として、今後のブランディングの方向性も含め、養成校継続に必要な視点についてそれぞれの「今」を共有する。それに即した内容を継続活動につながる具体的な取り組み、ヒントを提供できるような機会にしたい。
分科会方式	パネルディスカッション
座長	白澤 宏明 (岩手県 専修大学北上福祉教育専門学校)
進行	柴田 順子 (山形県 新庄コアカレッジ)
話題提供者	<p>① 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 総務・政策委員会 委員          北海道社会福祉審議会 委員          学校法人北斗文化学園 北海道福祉教育専門学校 学校長          澤田 乃基 氏</p> <p>【概要】全国の養成校の推移や現状を情報提供してもらい、どのような活動や、広報から養成校教育に何を求めるか等を知る。また、留学生を含む養成校の学生を、どのように進路形成させ、成業からの脱落をどのように防いでいくのかを話題提供していただく。</p> <p>② 一般社団法人 みらいキャリア研究所          代表理事 長谷 哲雄 氏</p> <p>【概要】高校生を対象に介護福祉士への進路をどう考え、どう進めているか、または何が敬遠させているのかを理解する。また経営者にむけた戦略的内容、広報の技術等を紹介いただく。</p> <p>③ 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 副会長          和歌山 YMCA 国際福祉専門学校 理事          井之上 芳雄 氏</p> <p>【概要】留学生を入れることで存続している養成校も多い現状もある中、今年度より入管が厳しくなるなど留学生の確保はもちろん、管理体制の変更点をお話いただき、その背景や情報を共有する。</p>



タイムスケジュール	9:30～9:40 分科会趣旨説明 各話題提供者の紹介
	9:40～10:25 話題提供
	① 9:40 ～ 9:55 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 総務・政策委員会 委員 北海道社会福祉審議会 委員 学校法人北斗文化学園 北海道福祉教育専門学校 学校長 澤田 乃基 氏
	② 9:55 ～ 10:10 一般社団法人 みらいキャリア研究所 代表理事 長谷 哲雄 氏
	③ 10:10 ～ 10:25 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 副会長 和歌山 YMCA 国際福祉専門学校 理事 井之上 芳雄 氏
10:25～11:00 ディスカッション	
11:00 ～ 11:25 まとめ	

#### 開催地 山形県のご案内

山形県には、意外な魅力がたくさんあります。自然豊かな土地であることは誰もが知るところですが、庄内、最上、村山、置賜の4つにエリアが分かれていて、それぞれ生活事情が異なることはあまり知られていないかもしれません。同じ県内でも場所によってさまざまな顔を持つだけに、季節ごとの魅力にもバリエーションがあります。ご当地グルメはさくらんぼが有名ですが、その他にも玉こんにゃくや芋煮、麦切りなどの家庭料理が特徴です。

みなさまとお会いできる10月下旬、秋の山形は紅葉が見ごろを迎えるだけでなく、新そばの風味とのごし、ブドウやラ・フランスなど果物の甘さも楽しめる時期でもあります。教員間の親睦を、ここ山形で深めて頂くだけでなく、多忙な業務と距離を“ちょっと”置いて、気分転換もできるような研修会でもありたいと思います。詳しくは公式観光サイトをご参照ください。

やまがたへの旅  
山形県公式観光サイト





会場周辺ホテル

ホテルの手配等は、参加者各自でお願い致します。



<https://www.mapion.co.jp/phonebook/M05002/06201/ST21392/>

1	山形駅西口ワシントンホテル	023-647-1111
2	ホテルメトロポリタン山形	023-628-1111
3	山形国際ホテル	023-633-1313
4	コンフォートホテル山形	023-615-4122
5	ホテルルートイン山形駅前	023-647-1050
6	ダイワロイネットホテル山形駅前	023-627-7255
7	リッチモンドホテル	023-647-6277
8	ホテルクラウンヒルズ山形	023-635-3385
9	ビジネスホテルヨシダ	023-632-5420
10	ビジネスホテルおかざわ	023-633-1616
11	東横イン山形駅西口	023-644-1045
13	スーパーホテル山形西口天然温泉	023-647-9000
14	ホテルリモージュ	023-625-1133
16	アパホテル山形駅前大通	023-633-9111